

横浜開港資料館 平成 28 年度第 2 回企画展示

明治のクール・ジャパン 横浜芝山漆器の世界 —金子皓彦コレクションを中心に—

1. 展示会期など

- 会 期 : 平成28年7月22日(金)～平成28年10月23日(日)
会 場 : 横浜開港資料館 新館 企画展示室
開館時間 : 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
水曜日は19時(入館は18時30分)まで開館
観 覧 料 : 一般200円、小中学生100円
休 館 日 : 月曜日(9月19日、10月10日は開館)、9月20日、10月11日
主 催 : 横浜開港資料館
共 催 : 横浜市教育委員会
協 力 : 金子皓彦、宮崎輝生
後 援 : 横浜市経済局、朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞
横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜
支局、tvk

2. 展示趣旨など

安政6(1859)年に横浜が開港すると、この港から漆器・陶器・木製品などの工芸品が欧米諸国へ輸出されていきました。横浜港は日本を代表する工芸品の輸出港であり、漆器を例に取れば、明治20年代に日本から輸出された漆器の70%前後は横浜港から輸出されました。海外では精巧で優美な日本の工芸品が大変な人気を呼び、欧米諸国の人びとは工芸品に触れることによって日本の文化に強い関心を寄せました。当初、工芸品は江戸時代以来の伝統的な生産地で作られましたが、やがて職人が横浜に移住し工芸品を生産するようになりました。

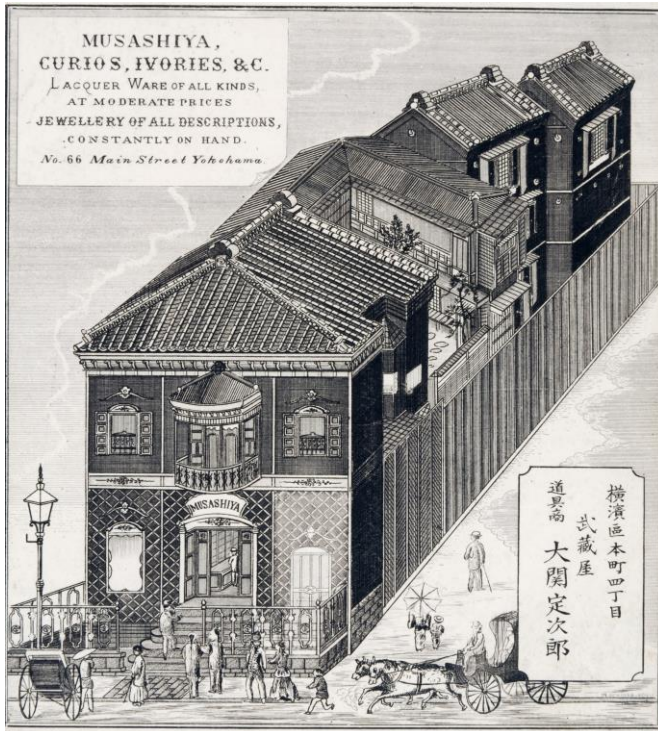
横浜芝山漆器はそうしたもののひとつで、横浜では貝・象牙・鼈甲・珊瑚などを漆器の表面にはめ込み花鳥人物を浮かび上がらせる芝山細工の技法を用いて、海外輸出向けの製品が大量に作られました。本展示では、日本の工芸品のコレクターとして著名な金子皓彦(てるひこ)氏から貴重な資料をお借りし、横浜芝山漆器を中心に横浜から輸出された工芸品の数々を紹介するとともに工芸品の輸出港として発展した横浜港の歴史を振り返ります。

3. 展示構成

- 1 横浜開港と工芸品の輸出
- 2 横浜芝山漆器の源流
- 3 伝えられた匠の技
- 4 横浜芝山漆器と横浜青貝細工
- 5 内国勸業博覧会と横浜の工芸品
- 6 輸出工芸品あれこれ
- 7 着色写真アルバムの輸出と漆器
- 8 戦後復興と横浜芝山漆器(村田禎男家所蔵資料から)
- 9 匠の技—日本のお土産—

4. おもな展示資料 (全展示数 約140点)

① 横浜で生産された漆器などを輸出した大関定次郎(武蔵屋)の店 横浜開港資料館所蔵『横浜諸会社諸商店之図』より



開港後、横浜には輸出用の漆器を扱う多くの店が建ち並んだ。

明治14(1881)年に刊行された『横浜商人録』には58軒もの漆器商が記載されている。大関定次郎(武蔵屋)もそうした店のひとつで、現在の中区本町通りに面して店があった。

大関は明治10年代から20年代にかけて市域ではもっとも良く知られた漆器商であり、明治14(1881)年に開催された内国勸業博覧会では、この店の出品した漆器が「有功賞牌1等」を受賞した。審査結果を記した資料には、「大関が日頃から職人を指導して品質の高い漆器を製造し、貿易の振興に努力している」と記されている。

② 横浜芝山漆器 子とろ図飾額 金子皓彦氏所蔵

横浜芝山漆器は、江戸時代後期に上総国武射郡芝山村(現・千葉県山武郡芝山町)の芝山専蔵によって考案され、江戸向けの商品として生産され始めた芝山漆器(芝山細工)の流れを引く工芸品で、横浜に移住した芝山漆器の職人が外国人好みの工芸品として製造を開始したものである。

作品には屏風や筆筒などの大きなものから手箱・盆・額・写真アルバムの表紙までさまざまなものがある。漆器の表面には貝・象牙・鼈甲・珊瑚などがはめ込まれ、美術品としての価値も高い。ここに掲げた「子とろ図」は明治時代に製作された横浜芝山漆器で、幅54cm、高さ42cmの飾額である。楽しみに「子とろ」と呼ばれた遊戯(鬼ごっこ)に興じる子供たちが描かれている。



③ 横浜芝山漆器 花鳥図飾額 金子皓彦氏所蔵



明治時代の作品。幅40cm、高さ40cm。

④ 芝山細工 豊年満作の図屏風 金子皓彦氏所蔵(⑤~⑦は屏風の部分を撮影した)



⑤



⑥



⑦



屏風や箆笥は芝山漆器の中でも比較的大きな作品である。④は今回出品した漆器の中でもっとも大きなもので、高さ166cm、幅182cmの屏風である。右側の部分には、紅葉の木の下で柿の実を運ぶ父親と父親の足下に子供を配している。その下には茶を運ぶ母親がいる。左側の部分には稲刈りを終えた2人の人物が描かれている。西洋の人びとが好んだ日本的な光景が生き生きと形作られている。

5. 展示関連事業

●展示関連講座&対談「横浜芝山漆器の魅力」

・講座 講師:金子皓彦氏(日本輸出工芸研究会会長)

・対談 宮崎輝生氏(横浜マイスター 芝山漆器工芸家)、金子皓彦氏

〔日 程〕 10月16日(日)

〔時 間〕 14:00~16:00

〔会 場〕 横浜開港資料館 講堂

〔受講料〕 500円

〔定 員〕 80名(応募者多数の場合は抽選)

〔申込方法〕 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、下記住所にお送り下さい。はがきは1枚につき1名様のみのお申込みです。

〒231-0021 横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館

芝山漆器展 講座係

お問い合わせ:045-201-2100

〔締 切〕 9月30日(金)必着

●展示担当者による展示解説

〔日 程〕 第1回 8月31日(水)、第2回 9月22日(木・祝)

〔時 間〕 第1回 17:30より(当日は夜間開館で19:00まで開館)

第2回 14:00より

各回30分程度

入館券をお持ちのうえ、2F 企画展示室入口にお集まりください。

●パネル展示「ハマに技あり～横浜マイスター20周年記念～」

横浜市経済局主催／横浜開港資料館共催

横浜マイスター事業と創立からこれまでに選ばれた横浜マイスターを紹介します。

〔日 程〕 10月12日(水)～10月23日(日)

〔会 場〕 横浜開港資料館 旧館 1F 記念ホール

*DVD 同時上映「横浜の芝山漆器」(横浜市技能文化会館所蔵)

6. その他

●展示関連出版物の販売 『明治のクール・ジャパン 横浜芝山漆器の世界-金子皓彦コレクションを中心に-』

B5判、16頁、500円(予価・税込み)

●10月9日(日)、10月10日(月・祝)は入館無料です。

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当	西川 武臣・石崎 康子	TEL 045-201-2128
	副館長	西川 武臣	TEL 045-201-2100

*画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 田中(広報) TEL:045-201-2100